

松本糸魚川連絡道路 ルート帯決定に向けた地区説明会

「つながる みんなのねがい」 ～松本糸魚川連絡道路の早期建設を～



姫川港と糸魚川市街地

新潟県糸魚川地域振興局地域整備部

H29.7

本日の地区説明会内容

■ 目 的

- 前回の地区懇談会（H20）のおさらい
- 環境影響調査結果について
- 最適と考えるルート帯（案）について
- 事業化に向けた今後の予定

本日の地区説明会内容

■ 目的

■ 前回の地区懇談会（H20）のおさらい

■ 環境影響調査結果について

■ 最適と考えるルート帯（案）について

■ 事業化に向けた今後の予定

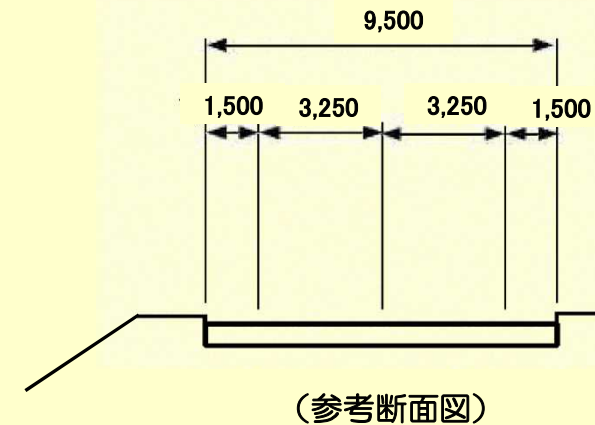
松本系魚川連絡道路とは？



1. 構造の要件

- ◆ サービス速度：概ね60km/h
- ◆ 車線数：2車線
- ◆ 交差方法：基本的に立体交差
(※現道利用部は平面交差の場合があります。)

2. 道路幅員の構成



国道148号の現状と課題

- 災害、異常気象時の通行規制
- 道路の線形不良(急カーブ、急勾配、狭い幅員等)
- 大型車両の通行による沿道環境悪化



松本系魚川連絡道路の役割と必要性

【観光・交流・物流】

◆地域経済の活性化

- 観光など交流人口の増加
- 観光拠点の魅力向上
- 周遊観光ネットワークが構築され、長野北アルプス地域との連携強化



能生海水浴場



高浪の池



フォッサマグナミュージアム

松本糸魚川連絡道路の役割と必要性

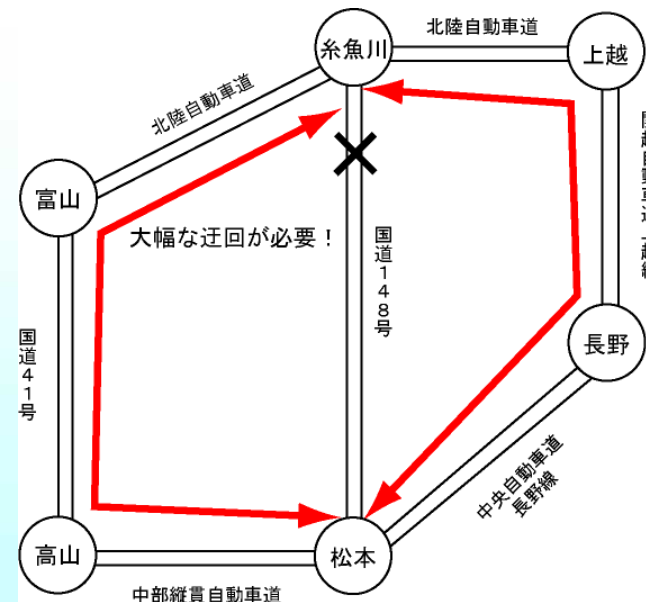
【災害に強い道路ネットワーク】

◆災害時の孤立集落を防ぐ代替道路の形成（リダンダンシーの確保）

◆防災拠点を結ぶネットワークの構築



H7.7.11集中豪雨



松本系魚川連絡道路の役割と必要性

【事故の軽減・救急医療】

◆事故の減少

- 事故件数の軽減
- 通行止めの回避

【現状】 H18年～H27年で
事故227件（死亡者10人）
通行止め 35回

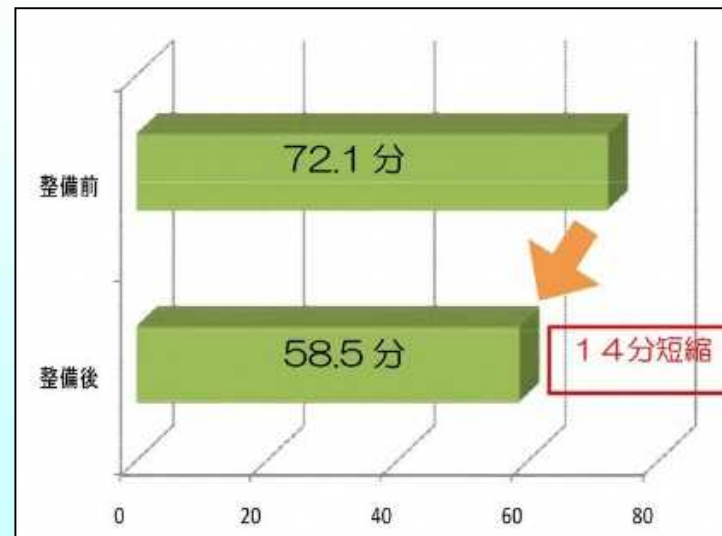
◆搬送時間の短縮、患者の負担軽減

- 県境部から第三次医療施設（上越市）までの搬送時間
⇒ 14分短縮（72分→58分）

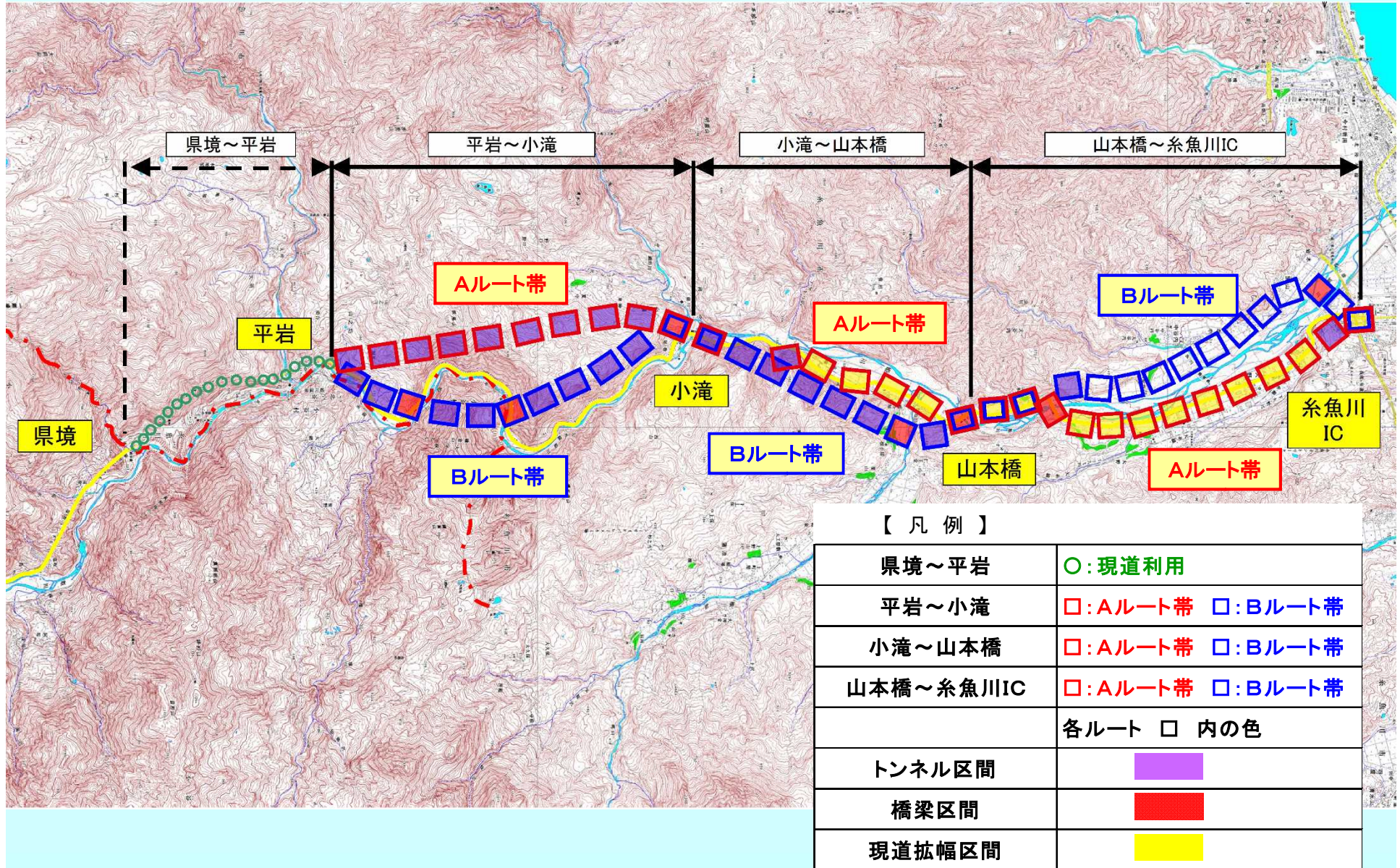
- 患者の負担大幅に軽減

所用時間の短縮

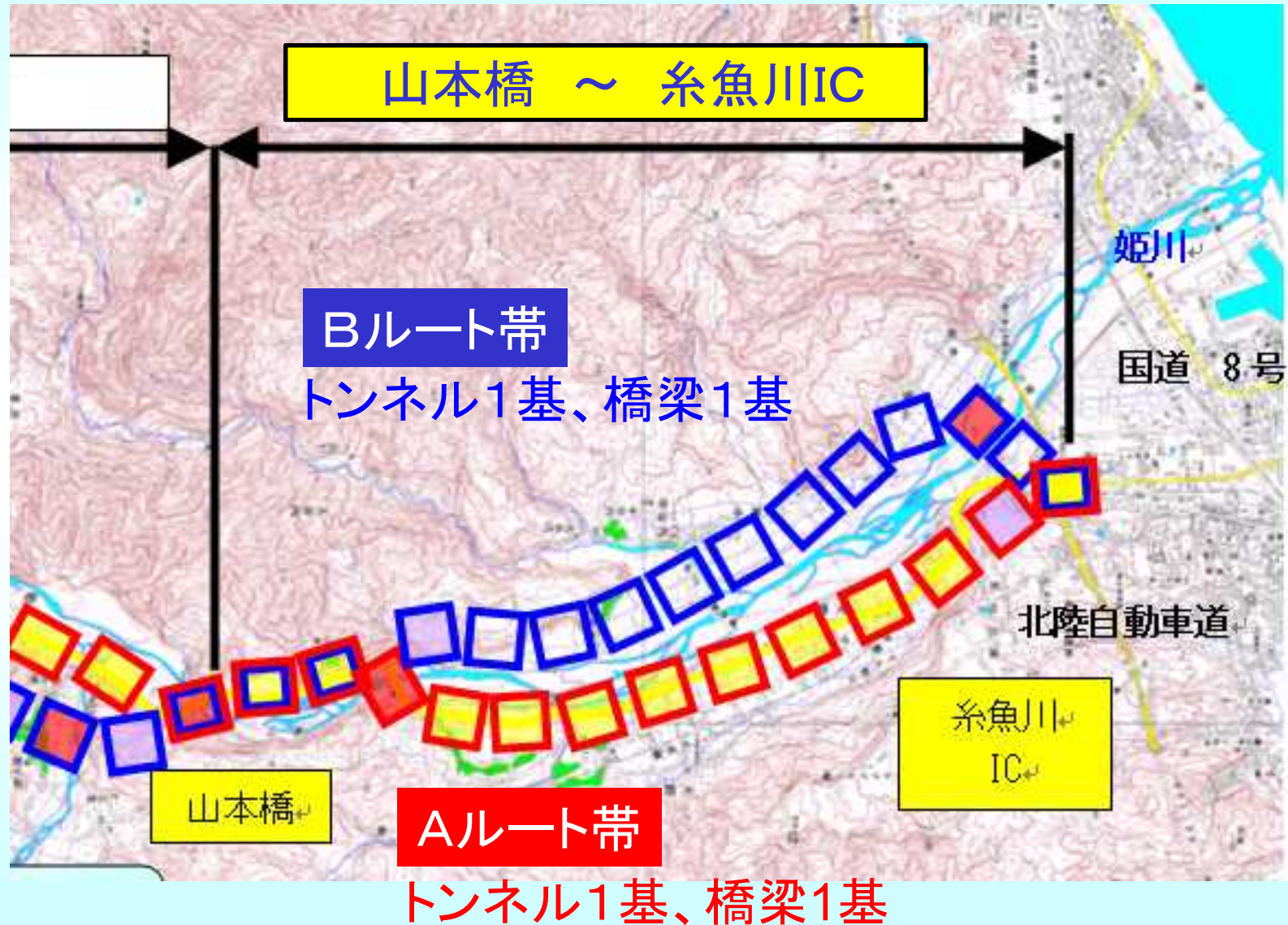
（県境部から第三次医療施設までの搬送時間）



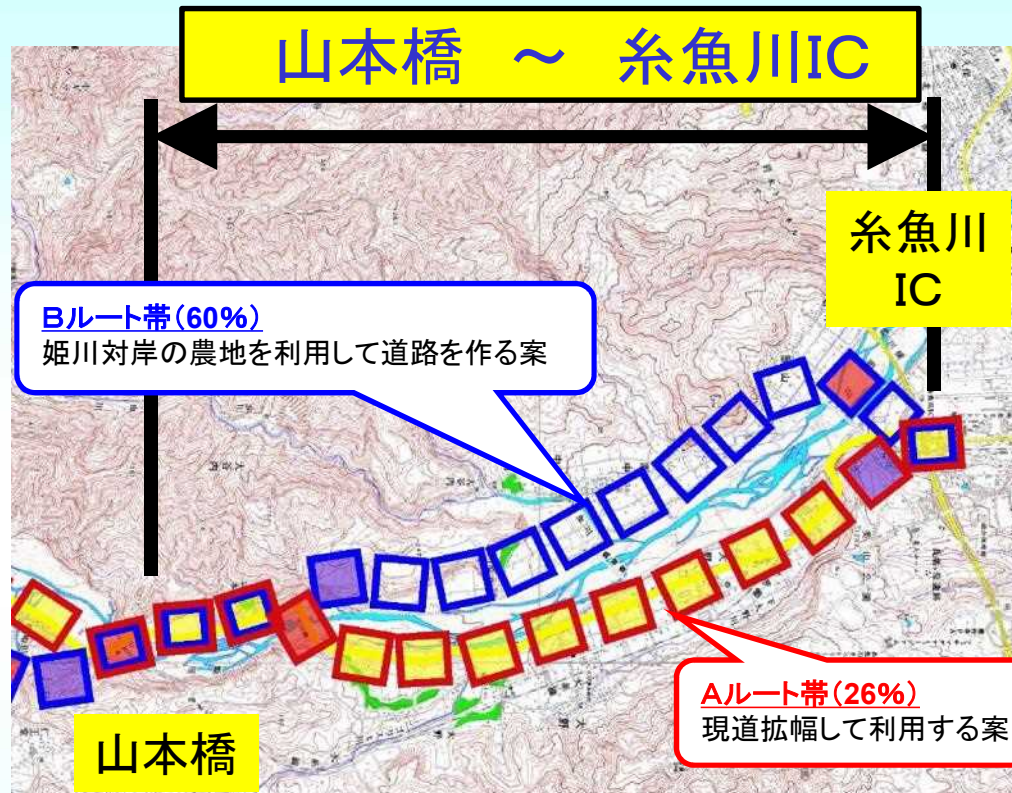
H20年地区懇談会 全体ルート帯案 比較図



H20年地区懇談会 区間毎ルート帯案

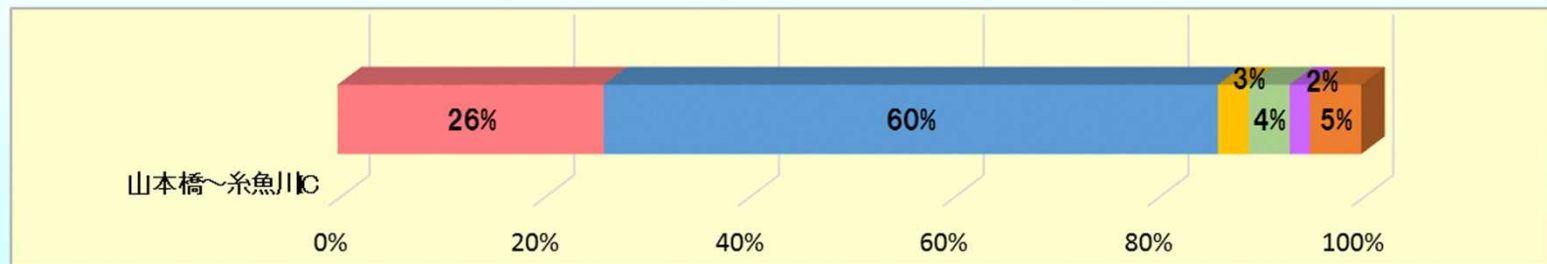


H20年アンケート結果(山本橋～糸魚川IC)



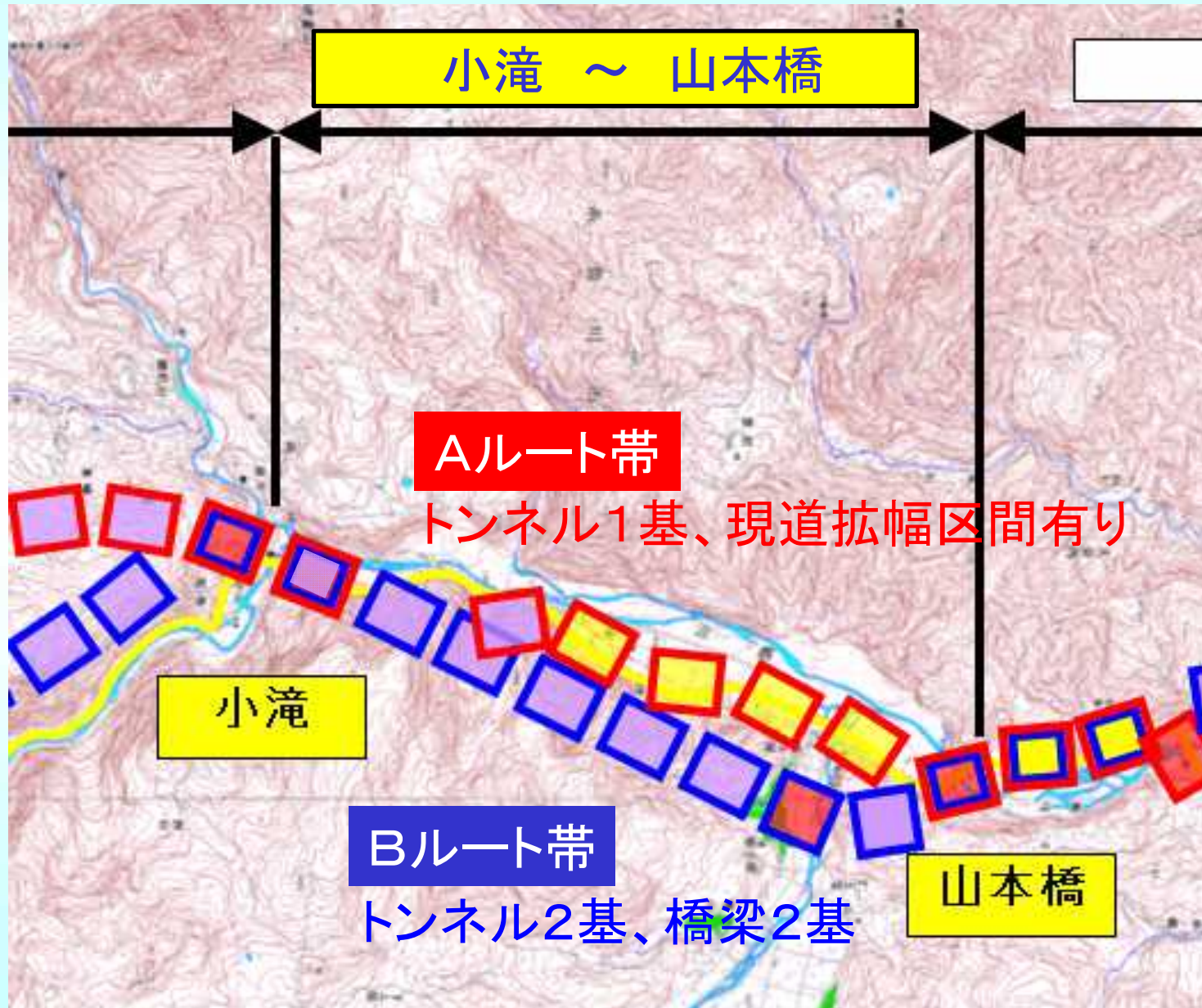
【凡例】

山本橋～糸魚川IC	□: Aルート帯 □: Bルート帯
	各ルート □ 内の色
トンネル区間	■
橋梁区間	■
現道拡幅区間	■

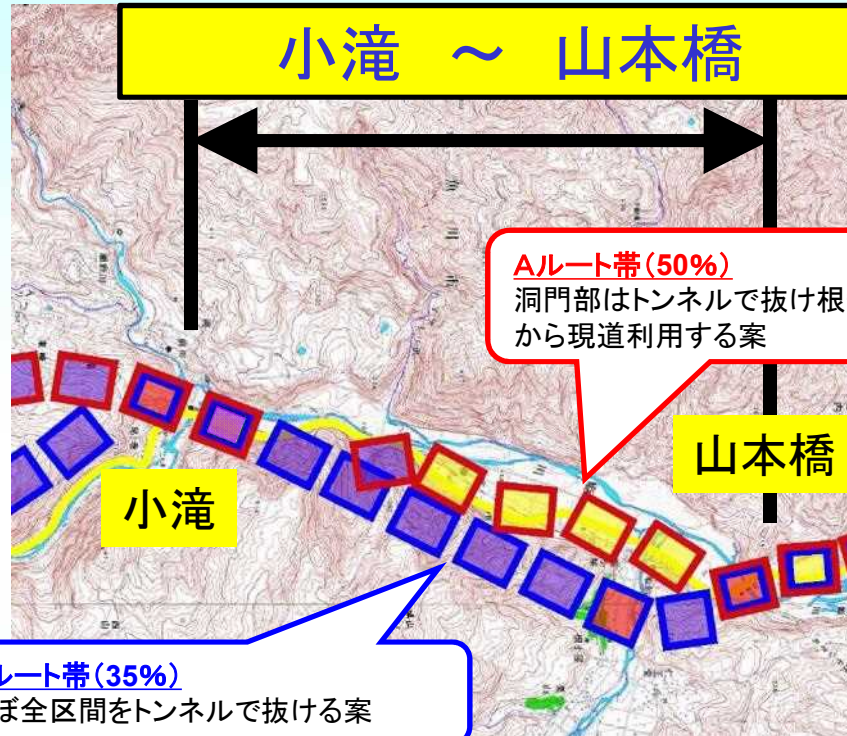


■ Aルート ■ Bルート ■ 整備しない ■ どのルートでもよい ■ その他のルート ■ 無回答

H20年地区懇談会 区間毎ルート帯案

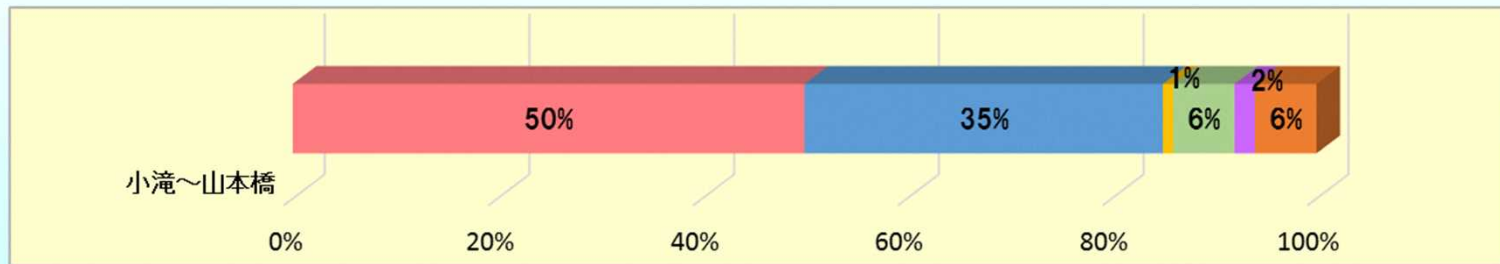


H20年アンケート結果(小滝～山本橋)



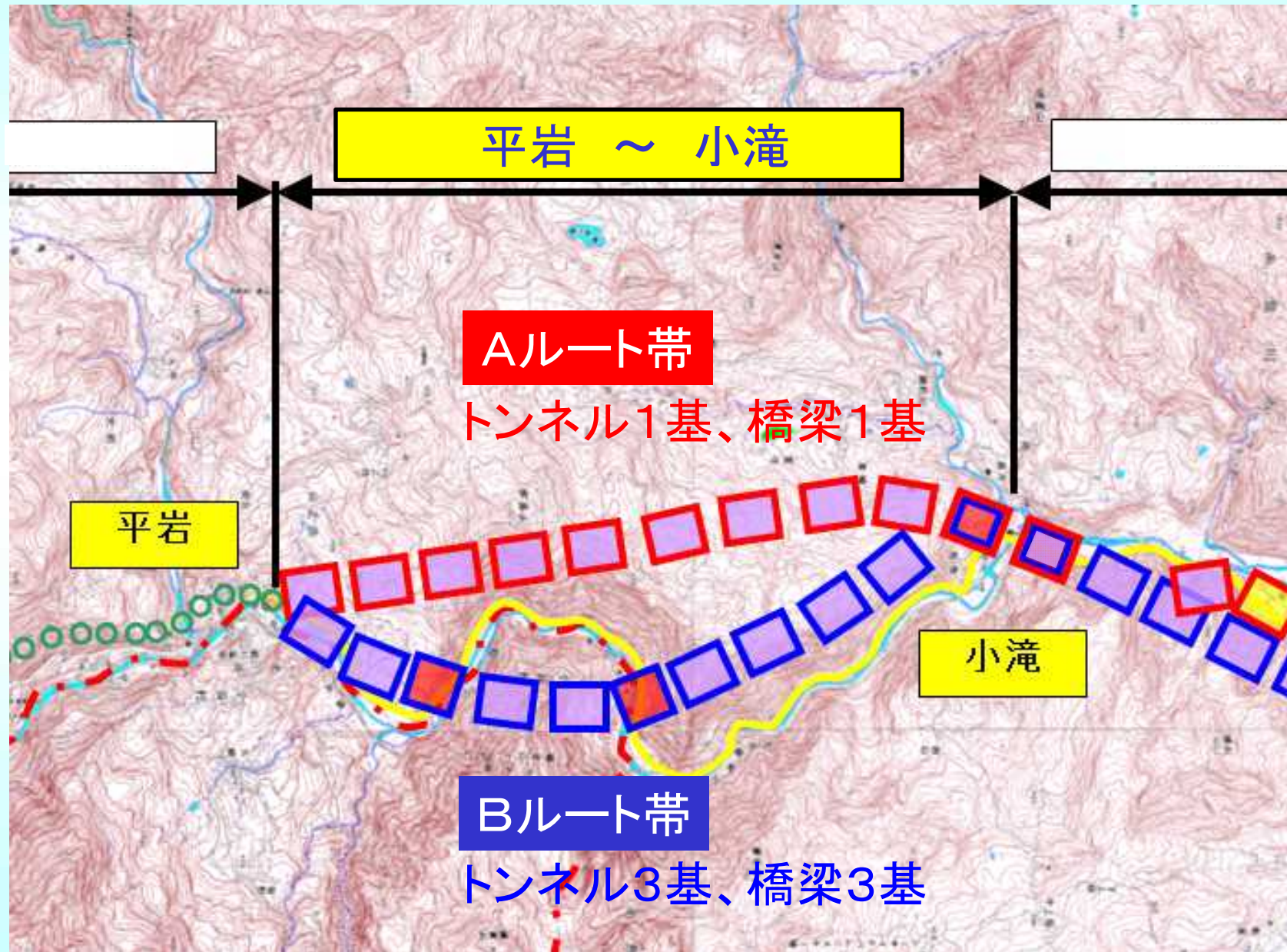
【凡例】

小滝～山本橋	□:Aルート帯 □:Bルート帯
	各ルート □内の色
トンネル区間	■
橋梁区間	■
現道拡幅区間	■

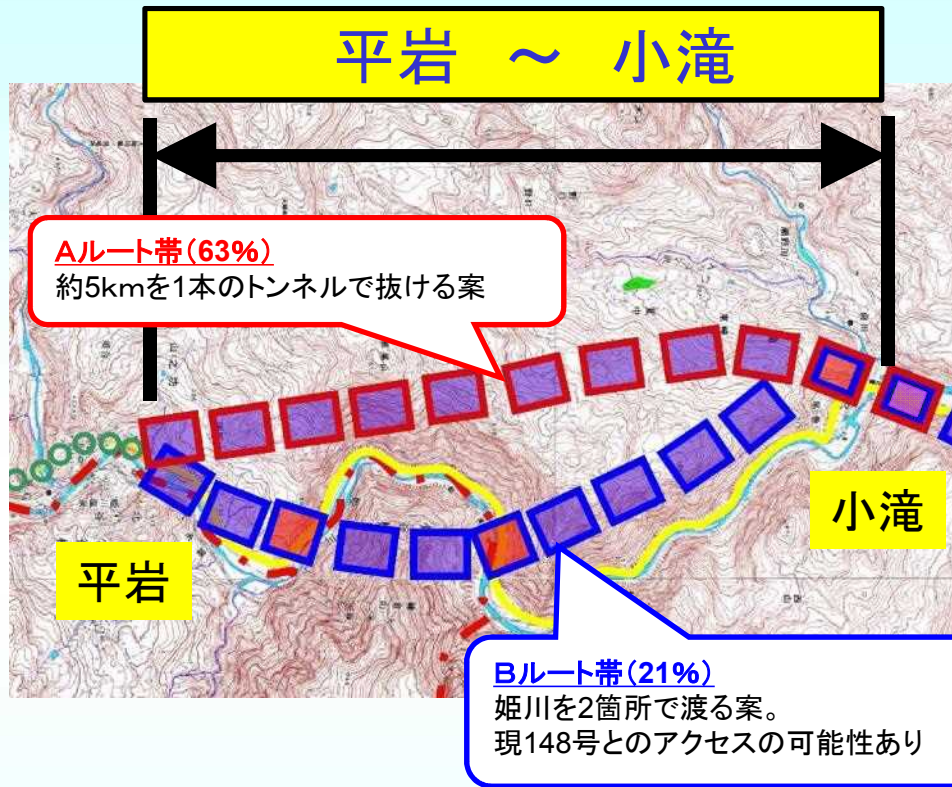


■ Aルート ■ Bルート ■ 整備しない ■ どのルートでもよい ■ その他のルート ■ 無回答

H20年地区懇談会 区間毎ルート帯案

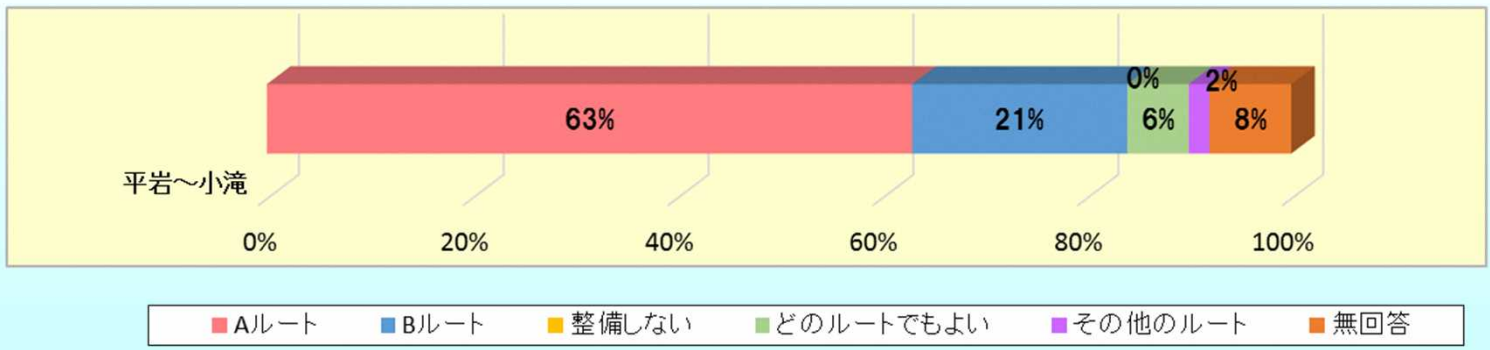


H20年アンケート結果(平岩～小滝)

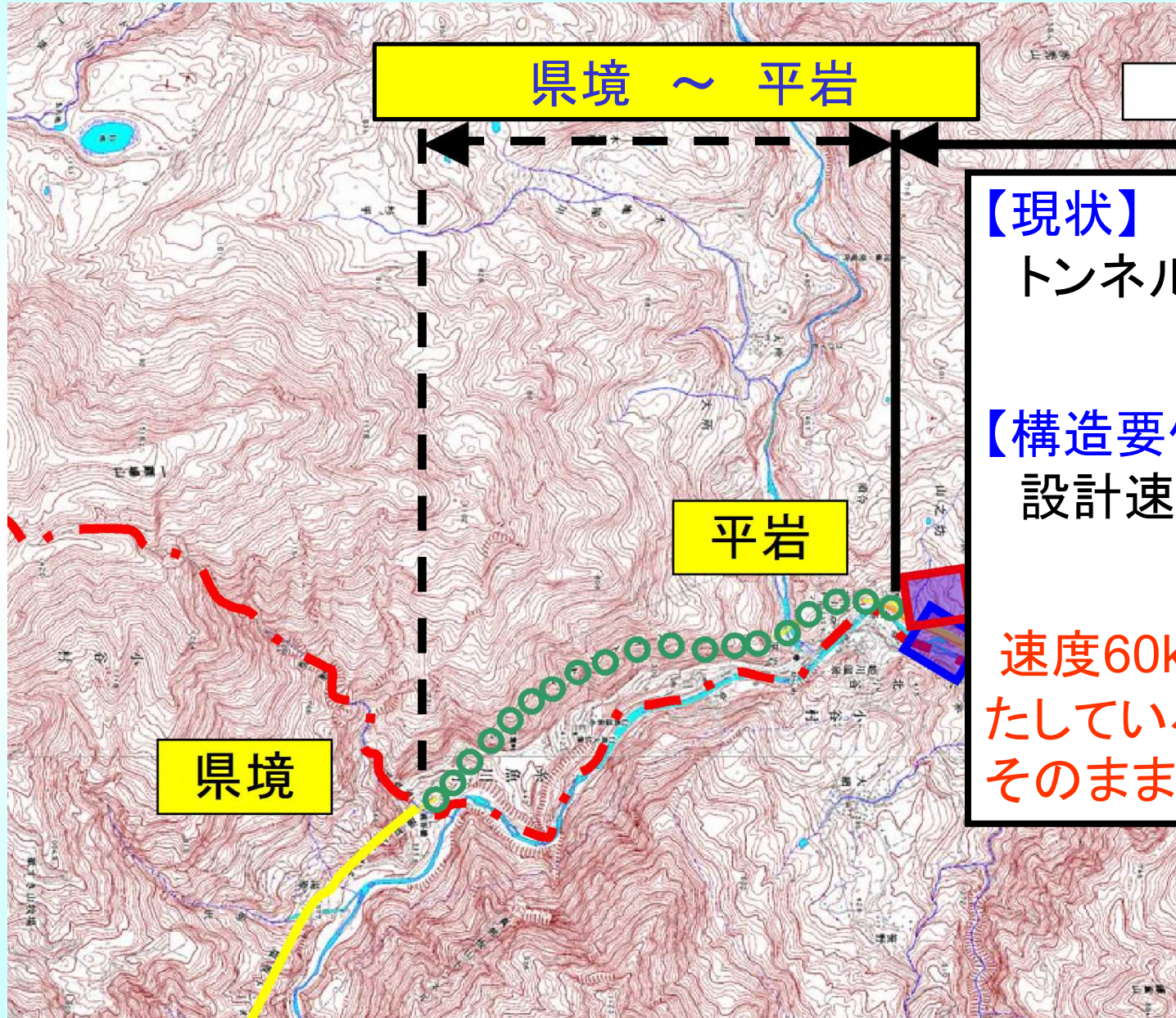


【 凡 例 】

平岩～小滝	□: Aルート帯 □: Bルート帯
	各ルート □ 内の色
トンネル区間	■
橋梁区間	■
現道拡幅区間	■



H20年地区懇談会 区間毎ルート帯案



【現状】
トンネルと橋梁

【構造要件】
設計速度 60km/h

↓

速度60kmの要件を満たしているため、現道をそのまま利用

H20年ルート帯案に対するアンケート結果



【 凡 例 】

県境～平岩	○: 現道利用
平岩～小滝	□: Aルート帯 □: Bルート帯
小滝～山本橋	□: Aルート帯 □: Bルート帯
山本橋～糸魚川IC	□: Aルート帯 □: Bルート帯
	各ルート □ 内の色
トンネル区間	■ (Purple)
橋梁区間	■ (Red)
現道拡幅区間	■ (Yellow)

本日の地区説明会内容

- 目的

- 前回の地区懇談会（H20）のおさらい

- 環境影響調査結果について

- 最適と考えるルート帯（案）について

- 事業化に向けた今後の予定

ルート帯案に対する環境影響基礎調査結果

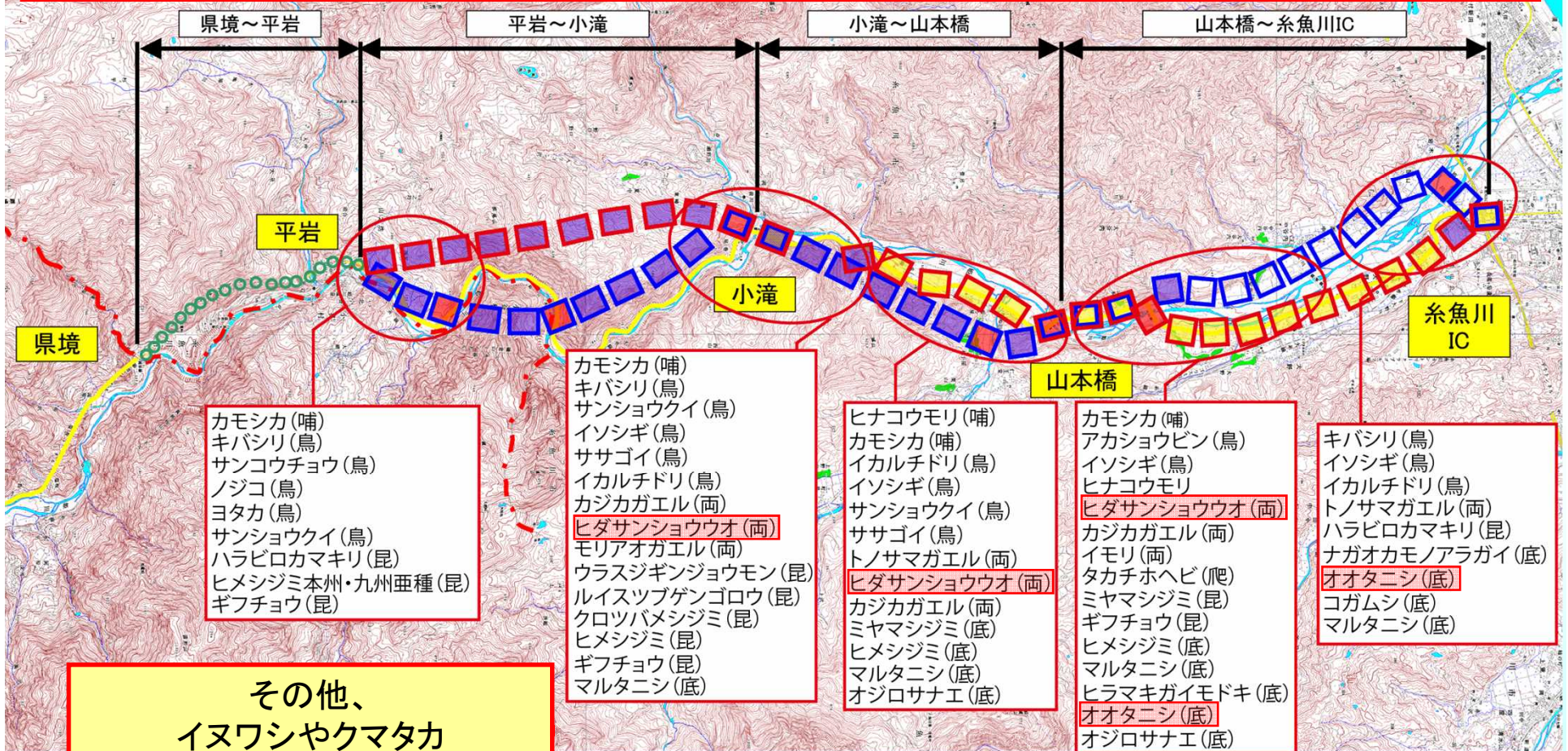
表. 環境調査実施の経緯

調査項目	内容	調査年月日	調査回数/箇所
猛禽類調査	猛禽類生息調査 イヌワシ繁殖状況調査 クマタカ繁殖状況調査	平成20年5月～平成21年3月	猛禽類生息状況調査4回(平成20年5月～8月) 猛禽類繁殖状況調査11回(平成20年5月～平成21年3月)
		平成21年5月～8月 平成22年2月～3月	猛禽類生息状況調査6回(平成21年5月～8月、平成22年2、3月) 猛禽類繁殖状況調査5回(平成21年5月～8月、平成22年3月) 林内調査2回(平成21年7、8月)
		平成25年2月～3月	猛禽類繁殖状況調査2回(平成25年2、3月)
		平成26年2月～3月	猛禽類繁殖状況調査2回(平成26年2、3月)
		平成27年2月～3月	猛禽類繁殖状況調査2回(平成27年2、3月)
大気質、気象	・大気質(窒素酸化物、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質) ・気象(風向・風速)	通年調査 平成22年11月～平成23年10月 各季調査 平成23年1月、5月、7月、10月	大気質(通年調査2箇所) 気象(通年調査2箇所、各季調査2箇所)
騒音・振動調査	騒音レベル 振動レベル 地盤卓越振動数 交通量	平成23年10月、11月	騒音レベル、振動レベル、地盤卓越振動数各1回 (平成23年10月/8箇所) 交通量1回(平成23年10月/3箇所)
動物調査 植物調査	哺乳類 両生類 爬虫類 鳥類 昆虫類 底生動物 植物相 植生	平成22年10月、12月、平成23年1月	哺乳類、両生類、爬虫類、鳥類、底生動物、植物相、植生各1回 (平成22年10月)
		平成24年7月、8月	哺乳類、両生類、爬虫類、鳥類、底生動物、植物相、植生各1回 (平成24年8月) 昆虫類1回(平成24年7月)
		平成27年5月、6月	哺乳類、両生類、爬虫類、鳥類、底生動物、植物相、植生各1回 (平成27年5月) 昆虫類1回(平成27年5、6月)

主な種(動物)の生育状況

生育環境対策(ビオトープの創造等)により維持保全に努めます。

→ルート帯の決定には影響ありません。



その他、
イヌワシやクマタカ
の生息を確認

※ 哺乳: 哺乳類、鳥: 鳥類、昆虫: 昆虫類、両: 両生類、底: 底生動物

影響の心配がある種(赤塗):

主な種(植物)の生育状況

生育環境対策(ビオトープの創造等)により維持保全に努めます。

→ルート帯の決定には影響ありません。



影響の心配がある種(赤塗) :

本日の地区説明会内容

- 目 的
- 前回の地区懇談会（H20）のおさらい
- 環境影響調査結果について
- 最適と考えるルート帯（案）について
- 事業化に向けた今後の予定

最適と考えるルート帯(案)について (山本橋～糸魚川IC)



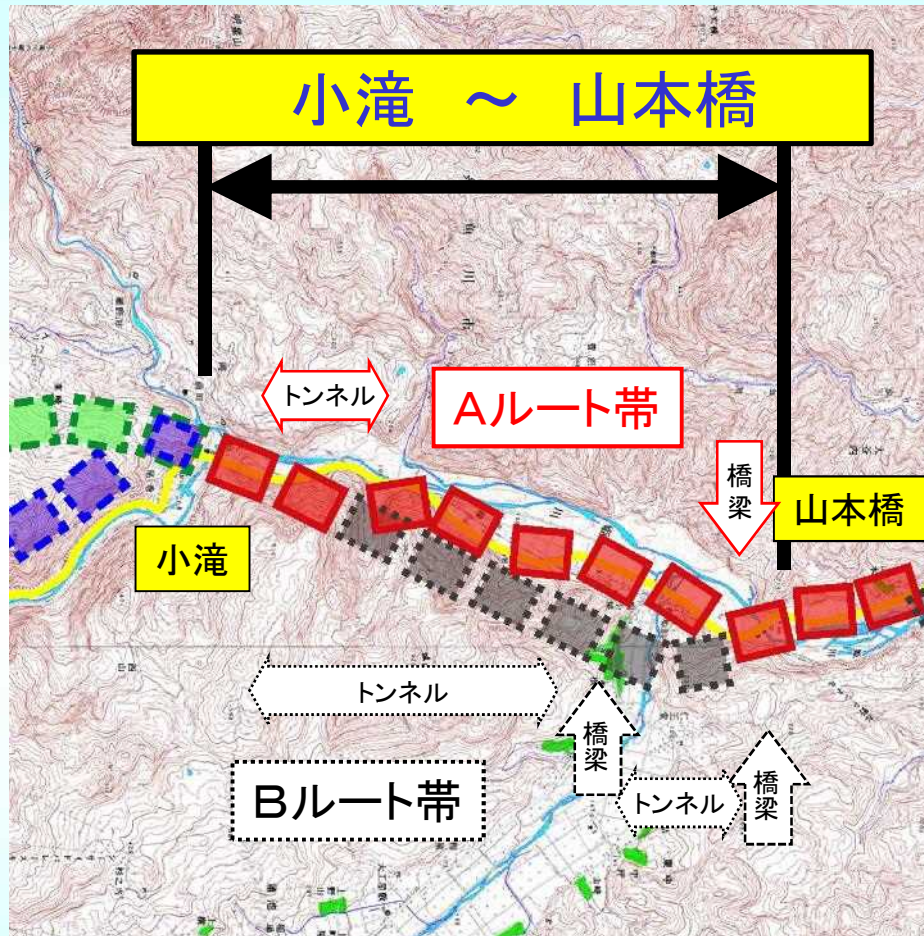
【理由】

- Bルート帯は市街地を回避するルートであるため、Aルート帯に比べ、大型車通行に伴う沿線住民への騒音振動の影響が少ない。
- Bルート帯は家屋・店舗などの移転が少ないため、Aルート帯に比べて事業費が安価である。
- H20アンケート結果では、Bルート帯を希望する意見が多い。

【最適と考える案】

- 市街地を回避する姫川左岸ルート帯(H20年提示:Bルート帯)

最適と考えるルート帯(案)について (小滝～山本橋)



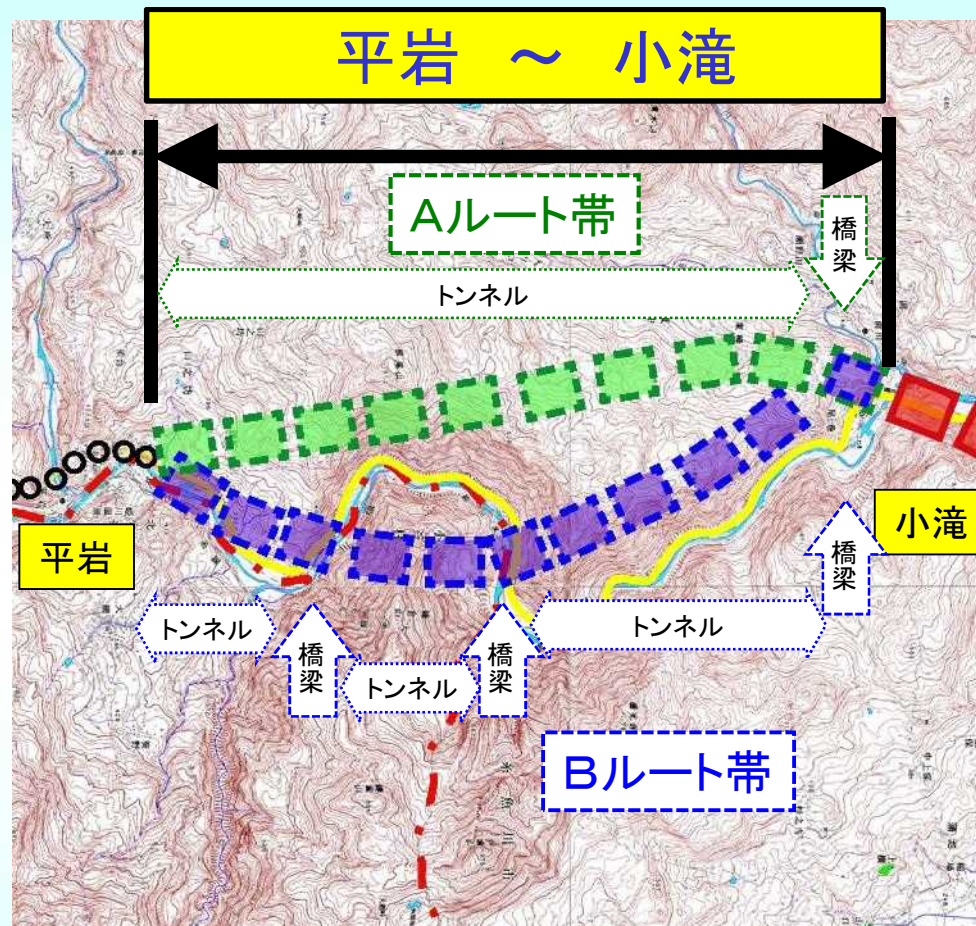
【理由】

- Aルート帯は現道利用区間が多く、Bルート帯に比べ、事業効果が早期に発現できる。
- Bルート帯はほぼ全区間トンネルであり、災害時等に安全であるが、Aルート帯の現道利用区間も、平坦部であり、災害発生の危険性が少ない。
- Bルート帯はトンネル延長が長く、Aルート帯に比べて、事業費が高価である。
- H20アンケート結果では、Aルート帯を希望する意見が多い。

【最適と考える案】

- 主に現道を活用するルート帯(H20年提示:Aルート帯)

最適と考えるルート帯(案)について (平岩～小滝)



【理由】

- Aルート帯は、ほぼ全区間トンネルであるため、災害時や冬期間でも安全な通行が可能。しかしトンネル延長が5km以上となる場合、危険物積載車両の通行に制限がかかってしまう。

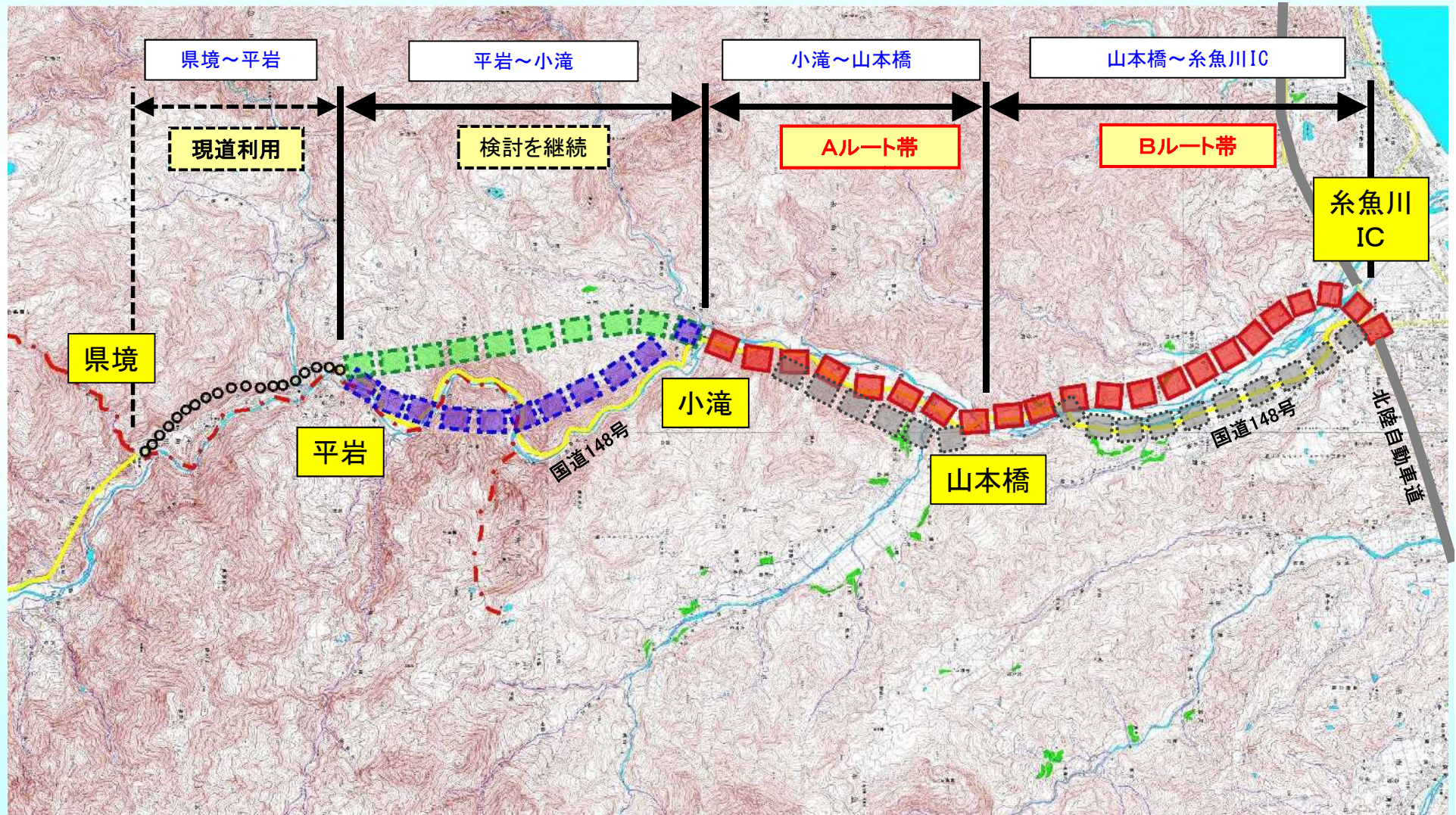
- Bルート帯は、トンネル区間毎に部分的な供用が可能であることから、Aルート帯に比べ事業効果が早期に発現できる。しかし、Aルート帯の方を希望するアンケート結果が多い。

- 両ルート帯とも、急峻な山間部での計画であり、更なる調査が必要である。また、事業費も他区間に比べ高額となるため、慎重にルート帯の検討を行う必要がある。

ルート帯の検討を継続します。

全体ルート帯図

- ◆小滝～山本橋 : 主に現道を活用するルート帯 (H20年提示Aルート帯)
- ◆山本橋～糸魚川IC : 市街地を回避する姫川左岸ルート帯 (H20年提示Bルート帯)



本日の地区説明会内容

■ 目 的

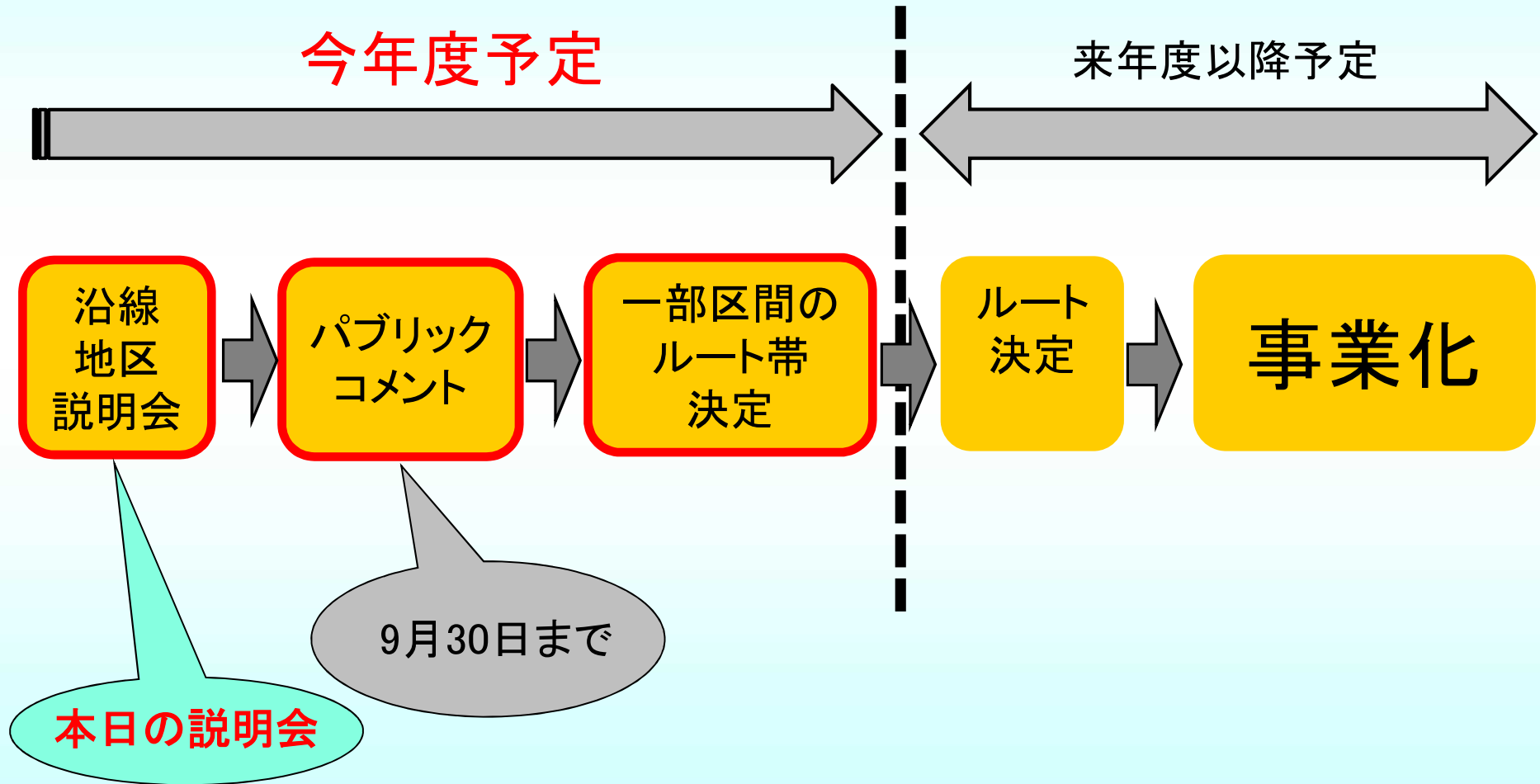
■ 前回の地区懇談会（H20）のおさらい

■ 環境影響調査結果について

■ 最適と考えるルート帯（案）について

■ 事業化に向けた今後の予定

事業化に向けた今後の予定



ご静聴ありがとうございました



ジオまる



ぬーな